

北海道がんセンター通信

2022

第62号

NOVEMBER



ライトアップされた旧・北海道庁舎と銀杏並木

CONTENTS

● 各科トピックス			
「婦人科」	婦人科医長	山田 竜太郎 2
「消化器内科」	消化器内科医長	佐川 保 3
● 各センタートピックス			
「サルコマーセンター」	骨軟部腫瘍科 副院長	平賀 弘明 4
「緩和ケアセンター」	緩和ケアセンター師長	村松 眞由美 5
● 新任医師紹介		4~5
● 部門トピックス			
「臨床検査科」	臨床検査科技師長	灘 雅雄 6
● 当院の大泉聡史副院長がTV取材を受けました		7
● 開催のご案内			
「第41回北海道がん講演会」		7
● がん検診のご案内		8

北海道がんセンターの理念
私たちは、国民の健康のために、良質で信頼される医療の提供に努めます。

(基本方針)

- 1 北海道がん診療連携拠点病院の使命を果たします。
- 2 常に医療の質と技術の向上を目指します。
- 3 医療安全を確保し、安心できる医療を提供します。
- 4 患者さんの権利を尊重し、誠実な医療を実践します。
- 5 研究、教育研修を推進し、医学・医療の発展に寄与します。

「北海道がんセンター 婦人科紹介」

婦人科医長
山田 竜太郎

我々婦人科は、昨年
から人員減少に伴い、2022
年8月まで一時的に4名
体制での診療となり、一
部診療を縮小しておりま
した。しかし、2022年10
月現在は6名体制での診
療となり、今まで通りの
通常診療を再開しており

ます。まずはこの場をお借りして、人員減少に伴い皆様にご不便をおかけいたしましたことをお詫び申し上げます。

昨年の診療実績ですが、子宮頸がん71例、子宮体がん86例、卵巣がん/腹膜がん65例、その他のがん11例の診療実績がありました。手術件数は良性も含めて510例であり、開腹手術が343例、鏡視下手術が167例でした。悪性腫瘍に対する鏡視下手術も積極的に施行しており、子宮頸がんに対する広汎子宮全摘は34例でしたが、そのうちロボットが11例、内視鏡が2例でした。子宮体がんに対しての腹腔鏡下手術（センチネルリンパ節生検併用）も49例施行しております。

子宮頸がんに対しては、適応を慎重に判断した上で積極的に鏡視下（ロボット支援下、内視鏡下）での広汎子宮全摘術を施行しており、根治性を担保しつつ、患者様に対して低侵襲に努めております。実際2007年～2018年までに当院で施行した開腹での広汎子宮全摘術160例と、鏡視下での広汎子宮全摘術50例を検討し、再発率に差がなく、優位な入院日数の短縮や出血量の減少を確認しております。

子宮体がんに対しても低侵襲に心がけており、道内でも数少ない、センチネルリンパ節生検の術中迅速診断を併用した腹腔鏡での手術を施行しております。この術式により、リンパ節郭清術を省略し、下肢リンパ浮腫や周術期合併症を

減少することが可能となっております。また、子宮体がんの薬物療法としては、今年から適応となったペンプロリズマブとレンバチニブの併用療法についても積極的に導入し、現時点で12例への治療を経験しております。

近年治療の選択が多様化してきている卵巣がん/腹膜がんに対しても、HRD検査やBRCA検査等を駆使し、患者様ごとの最適な治療を提案できる体制を整えております。

当院では近年の高齢化社会に対応するため、高齢者に対する治療前的高齢者機能評価を実施する前向き研究を施行させていただいており、高齢者に対しての安全な治療を提供できるよう努力しております。また、それと並行し、がんの治療前にサルコペニアの評価や骨粗鬆症の評価をし、治療による合併症等を予期する努力もしております。

毎日婦人科の手術枠があり、がんの根治術を毎日施行可能な施設です。札幌市外からの患者様に対しても、早急な手術に対応することが可能です。婦人科悪性腫瘍でお困りの際は、いつでも気軽にご相談いただければと存じます。

また、緩和ケア内科医や緩和病棟も充実しており、積極的治療のみではなく、終末期のがん患者様にも寄り添う環境が整っておりますので、治療の適応とならない進行がん患者様に関しましても、気軽にご相談ください。

これからも日々婦人科がん診療に邁進してまいりますので、よろしく願いいたします。

消化器内科

「消化器内科紹介」



消化器内科医長
佐川 保

当科は8名で診療を行っております。対象疾患は消化器系から発生した腫瘍性疾患です。消化器は食道・胃・十二指腸・小腸・大腸という消化管、肝臓・胆嚢・膵臓などの内臓といった幅広い領域からなります。そこで消化管チーム・肝胆膵チームの2チームを構成しております。

消化管チーム：食道がん、胃がん、大腸がん等の治療を担当しています。早期がん（粘膜内がん）に対しては内視鏡的粘膜下層剥離術（ESD）という方法で治療をしております。ESDでは大きな腫瘍や高度線維化などの切除困難病変に対しても治療が可能です。内視鏡治療・外科手術の適応とならない症例に対しては化学療法も積極的に行っております。消化管がん治療においても免疫チェックポイント阻害薬（ICI）が普及して、患者さんの生存期間も以前に比べると長くなってきました。ICIは従来抗がん剤とは異なる副作用（irAE）も出ることがあり注意が必要です。irAE対策も多職種チームで行っており、患者さんに安心して治療をしていただく環境が整っています。

肝胆膵チーム：肝臓がん、膵がん、胆管がん等の治療を担当しています。これらは発見時には治療が難しい症例が多く存在します。他院での治療が難しい症例に対して集学的治療を積極的に行っております。門脈本幹に腫瘍浸潤を伴う肝臓がんに対する放射線照射＋動注化学療法など行うことでStage IVB進行肝がんに対しても長期生存症例を経験しています。治療効果を高める試みとして現在世界中で腸内細菌に関する研究が盛んに行われ、臨床応用が盛んになさ

れるようになってきました。当科でも腸内細菌を通じて治療効果を高めるため、企業と共同で臨床研究も行っています。治療効果が期待できる腸内細菌叢解析を次世代シーケンサーを用いて研究しております。

消化器外科との連携：がん手術には、技術的側面（手術可能、不可能）と腫瘍学的側面（取ってもよい、取らない方がよい）という2つの考え方があります。また、化学療法成績向上に伴い、当初、手術困難と判断されても化学療法によりがんが縮小し、手術が可能になる症例があります。合同カンファレンスを行うことにより個々の症例に対して十分な検討を行い最適な治療を提供できるよう心がけています。

新しい治療：よりよい治療の開発等を目的とする治験や臨床試験などを行っています。また、当院はがんゲノム医療連携拠点病院（がんゲノムセンター長：横内浩先生）でもあり、がんゲノム医療を提供できる体制を整えております。遺伝子パネル検査では当科でも多数の実績があります。また、他院からの紹介患者さんに対しても対応しております。

原発不明がん：組織学的に転移性がんと証明されているにもかかわらず、臨床的に原発巣がわからない原発不明がんという病気があります。当科では私（薬物療法科兼任）が担当させていただいております。

消化器内科では最善の治療を提供できるよう心がけております。お困りのことがございましたらご相談ください。



サルコーマセンター設立から9年が経過しました



肉腫（サルコーマ）は、体を支える骨や筋肉、脂肪組織などに発生するがんであり、四肢、後腹膜、骨盤、縦隔など様々な部位に発生します。年間発生数は全国で推定約4000人と少ない代表的な希少がんであり、治療開発は遅れております。そこで、平成25年10月、当院にサルコーマセンターを開設しました。

センターは骨軟部腫瘍科、消化器外科、泌尿器科、呼吸器外科、腫瘍内科、婦人科、頭頸部外科、口腔腫瘍外科、病理診断科、放射線診断科、放射線治療科の11領域から構成され、多くの方が治療をうけております。

当院のサルコーマセンターは、電子カルテの機能を利用した迅速な情報共有と、医師間の密な連携やカンサーボードでの議論による適切な診断と治療を特徴としております。

設立から9年が経過し、道内の外科、内科、泌尿器科、腫瘍内科、婦人科等の医師から患者さんの御紹介をいただいております、当センターの

存在が認知されてきていることを実感しております。窓口は上記のどこの診療科でも構いません。連携室を通じてご連絡いただけますと幸いです。



骨軟部腫瘍科
副院長 平賀 弘明

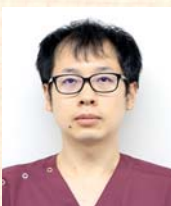
さて、後腹膜には脱分化型脂肪肉腫という肉腫が多く発生しますが、現在、脱分化型脂肪肉腫進行例に対する薬剤の治療が進行中であります。切除不能となりお困りになっている患者さんがいらっしゃいましたら、ぜひご連絡いただけますと幸いです。

今後ともみなさまのご理解とご協力をいただきますようよろしくお願い申し上げます。

新任医師紹介

- ①氏名 ②ふりがな ③職名 ④専門分野
- ⑤所属学会 ⑥自己紹介

呼吸器内科



- ① 田上 敬太 ② たがみ けいた
- ③医師 ④呼吸器疾患 ⑤日本内科学会、日本呼吸器学会、日本肺癌学会
- ⑥呼吸器内科医師の田上敬太と申します。北海道大学を卒業し、JCHO北海道病院、

北海道医療センター、小樽協会病院などでの勤務を経て、2022年10月より北海道がんセンターに赴任させていただきました。これまで呼吸器疾患全般の診療に携わってききましたが、当院ではがん診療を主体に地域の医療に貢献できるように頑張っていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

血液内科



- ① 山村 満恵 ② やまむら みえ
- ③医師 ④産婦人科 ⑤日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会日本婦人科内視鏡学会、日本周産期新生児学会
- ⑥9月から赴任して参りました山村です。

これまで、函館中央病院、釧路赤十字病院、市立札幌病院、帯広厚生病院で勤務し、ここ5年程はJCHO北海道病院で非常勤として勤務しておりました。常勤としての勤務も悪性疾患に携わるのも、久しぶりで浦島太郎状態ですが、日々精進して参りますので、何卒よろしくお願いいたします。

緩和ケアセンター 看護師の活動

緩和ケアセンターは、がん患者さんやご家族等に対して、診断時から迅速かつ適切な緩和ケアを切れ目なく提供するように、「緩和ケアチーム」「緩和ケア外来」「緩和ケア病棟」等を統括する院内組織です。緩和ケアセンターには3名の看護職員が常勤し、緩和ケアの提供体制を強化できるように活動を行っています。

「緩和ケアチーム」は入院患者さんを対象に病気や治療によるつらい症状や悩みを緩和し、その人らしい日々を送ることができるようにサポートします。チームメンバーの医師、清水看護師（緩和ケア認定看護師）が中心となり、薬剤師、公認心理師、栄養士、リハビリテーションなどと協働し、現在の治療や生活がスムーズになるようにお手伝いしています。

「緩和ケア外来」は外来患者さんを対象に、がんの痛みや治療に伴う副作用、気持ちの落ち込みや不眠などの精神面を緩和するための治療をしています。当院以外の患者さんでもご相談

が可能です。また、「がん看護外来」は、がんと診断された患者さんの療養上の心配事や不安に対して一緒に考え専門的な心理的支援をします。各診療科の医師からICの同席や依頼も多く、佐々木副看護師長（緩和ケア認定看護師）が中心になって行っています。

4月から緩和ケアセンター師長になりました村松は、不慣れながら、緩和ケア病棟や、がん相談支援センター等と連携し、意思決定支援の必要な入院・外来患者の面談同席や必要に応じた調整、研修会の実施、患者の苦痛スクリーニングを始めデータの集約や評価等を行っています。3名（3姉妹）力を合わせ緩和ケアセンターの活動を行っていますので、ご協力よろしくお願いたします。



写真 左(次女) 佐々木由紀子 中央(長女) 村松真由美 右(三女) 清水 知美

(報告：緩和ケアセンター師長 村松 真由美)

婦人科



① 青山 聖美 ② あおやま さとみ

③ 医師 ④ 産婦人科一般、リンパ浮腫(ドレナージ) ⑤ 日本産婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本産婦人科内視鏡学会、日本内視鏡外科学会、日本緩和医

療学会、日本人類遺伝学会、日本癌学会

⑥ 2001年旭川医大卒、北海道大学産婦人科に入局し、これまで手稲深仁会病院、旭川厚生病院、苫小牧王子病院、北大病院、網走厚生病院、国立がん研究センター研究所(リサーチレジデント)、小樽市立病院等で勤務し、主に婦人科一般診療に従事してまいりました。当院は旧病院時代の2007年～2009年以来の勤務となります。患者様やご家族に安心して治療を受けていただけるよう心掛けて努めていきたいと思ひます。よろしくお願いたします。

病理診断科



① 大川 紘弥 ② おおかわ ひろや

③ 医師 ④ 熟考中 ⑤ 日本病理学会 ⑥ この度10月より着任いたしました大川と申します。2年間の初期研修を終え、今年度の4月より病理専門研修を開始いたしま

した。がんの病理診断について深く学んでいくとともに、がん患者様の診療を陰ながら支えさせていただきたいと思ひます。病理診断科の一番の特徴は、患者様の「実際の検体」が集まることだと思ひます。実際の検体を顕微鏡で細胞を見てみたり、病気が作り出す物質を見たり、遺伝子の変化を見たりといった、「病気の観察」ができる点が病理の最大の強みであり、魅力だと考えております。専門研修を開始して半年ほどの若輩者ではありますが、何卒よろしくお願申し上げます。

臨床検査科

ISO15189を取得しました



臨床検査科技師長
灘 雅雄

北海道がんセンター臨床検査科は、本年3月に日本適合性認定協会より臨床検査室の認定ISO15189を取得しました。

このISO15189は、臨床検査に特化した国際標準規格であり、品質マネジメントと臨床検査室の

種類に応じた技術能力を満たしていることを保証するものです。ISO取得の過程では、標準測定作業書や測定機器管理簿の作成、外部精度管理の参加、教育研修の充実、顧客満足度調査など、品質マネジメントの運用に必要なあらゆる手段を講じてきました。

品質マネジメントの一例として、品質マニュアルに基づいて環境管理手順書があり、冷蔵庫、冷凍庫は1日2回、温度を記録管理すると、定められています。毎日朝夕の2回、手分けして記録をとっています。これにより各庫内の試薬や検体の品質を担保します。日々の記録が品質を支えています。

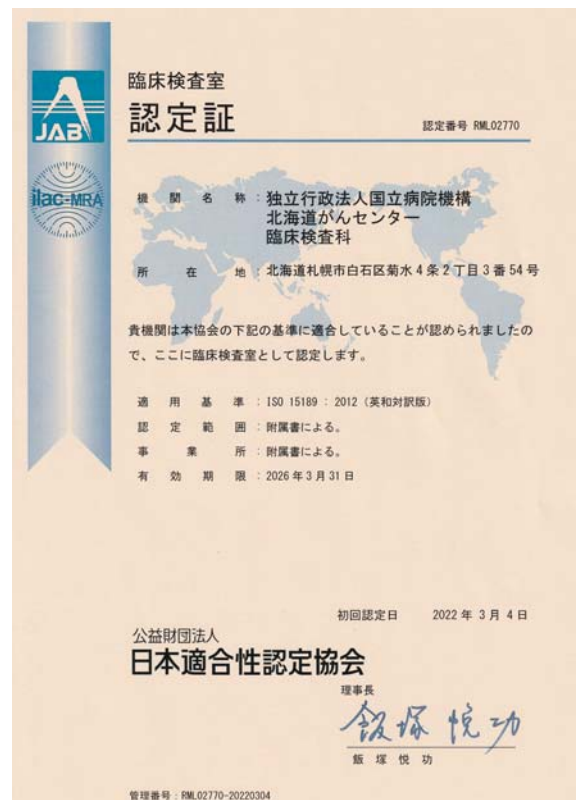
ちなみに、検査科内には20台程の冷蔵・冷凍庫があり、結構な労力です。もちろん、温度計にも管理手順書があり、温度計の精度を保っています。

このたびのISO取得はがんゲノム医療拠点病院の要件充足が最大の目的でしたが、臨床検査室の品質の向上のためのISO要求事項を効率的に実施する品質マネジメントシステムを現在も維持しております。

全ての患者様とその診療に責任を持つ医師のニーズに対応できるよう、検体採取と受領から質の高い検査結果提供まで、精度管理・環境整備・教育などの精度向上に検査科一同、今後とも努めて参ります。

【認定取得の概要】

- 1) 認定機関：公益財団法人日本適合性認定協会
- 2) 認定名：国際標準化機構 ISO 15189
- 3) 認定されたもの：北海道がんセンター臨床検査科
- 4) 認定日：2022年3月4日





2022年9月5日

当院の大泉聡史副院長がTV取材を受けました



● 放送局 UHB北海道文化放送

● 番組名 「松本裕子の病を知る」

毎月 第2・4日曜日

あさ6時15分から放映)

● 放送内容 「“肺がん”を知る

～遺伝子変異をターゲット！ 肺がんゲノム医療」

● 放送日時 9月25日(日)

● 「松本裕子の病を知る」HP

<https://uhb.jp/program/yamaiwoshiru/>

放送後は、動画が番組HPから公開されます。

(UHB公式YouTubeチャンネルに飛びます)

見逃した方はWebでもご覧いただけます。



大泉副院長と松本裕子医療キャスター

開催のご案内

第41回 北海道がん講演会

呼吸器外科における手術の進歩

当院では毎年地域の皆様を対象に「北海道がん講演会」を開催しております。

開催方法は新型コロナウイルスの感染予防のため、前年度と同じくオンデマンドで開催をいたします。

本年度は当院呼吸器外科医長の安達大史より「呼吸器外科における手術の進歩」と題して呼吸器外科領域における手術について、当院で行われている手術を中心にお話しします。

視聴期間は2022年12月1日から2023年1月31日までとなっております。

視聴については当院ホームページのご案内よりお願いいたします。皆様のご視聴をお待ちしております。

第41回北海道がん講演会

呼吸器外科における手術の進歩

【講師】

国立病院機構
北海道がんセンター
呼吸器外科

医長 安達 大史



本年度は新型コロナウイルス感染拡大予防のため、オンデマンド形式で開催します。
今回は呼吸器外科領域における手術の進歩について、当院で行われている手術を中心にお話しします。

【申込方法】事前申し込みは不要です。

【視聴方法】下記URLかQRコードより視聴できます。

<https://youtu.be/NXtTqeMwAxY>

【視聴期間】

2022年12月1日(火)
～2023年1月31日(火)



国立病院機構 北海道がんセンター
患者総合支援センター内
がん相談支援センター

お問合せ 電話番号 011-811-9118

〒003-0804 札幌市白石区菊水4条2丁目3-54

【主催】国立病院機構 北海道がんセンター

北海道がんセンター がん検診のご案内

完全予約制

● 4大がん検診

- 腹部エコーにより肝臓を中心に観察
 - 胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
 - 便潜血反応による大腸がんスクリーニング
 - 低線量CTによる肺がん検診
- 毎週水曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40
毎週木曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40

● 腹部3大がん検診

- 腹部エコーにより肝臓を中心に観察
 - 胃内視鏡（胃カメラ）による上部消化管検診
 - 便潜血反応による大腸がんスクリーニング
- 毎週水曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40
毎週木曜日 ①14:00 ②14:20 ③14:40

● 低線量肺がんCT検診

一般的な肺CTよりも少ない被ばくでCTが受けられます。
月～金曜日 ①12:00 ②15:00

● 乳がん検診

マンモグラフィによる検診
(エコーなどのオプションもあります)
毎週 火曜日・金曜日 14:30～

● 婦人科がん検診

子宮頸がん・子宮体がん検診
(エコーなどのオプションもあります)
毎週月曜日 9:00～
毎週木曜日 14:30～

● 前立腺がんのPSA検診

採血後2時間以内に泌尿器科医師より結果とその後の指示を受けられます。
完全予約制/月・木曜日 11:00

● 大腸がん検診

当院では予約日に消化器内科医師より直接検診結果を聞くことができます。
完全予約制/月～金曜日 14:00～

● 胃がん内視鏡検診

専門的な知識と技術を備えたスタッフが対応させていただきます。
完全予約制/毎週金曜日 ①9:00 ②9:20 ③9:50

● PET検診

全身を一度に調べることができます。
平日/月曜日～金曜日 10:30

予約受付センターの受付時間：毎週 月曜日～金曜日
電話による予約 13:00～16:00 / 窓口による予約 9:00～16:00

患者さんの権利

1. 人格が尊重され、良質な医療を平等に受ける権利があります。
2. 十分な説明を受け、自分が受けている医療について知る権利があります。
3. 自らの意思で、医療に同意し、選択し、決定する権利があります。
4. 個人のプライバシーが守られる権利があります。

患者さんの責務

1. 良質な医療を実現するため、医師等に患者さん自身に関する情報を正確に提供してください。
2. 納得出来る医療を受けるため、良く理解出来なかった説明については、理解出来るまで質問してください。
3. 他の患者さんの医療及び職員の業務に支障を与えないようにご配慮下さい。

患者さんへのお願い

院内の取り決めを守り、病院職員と協同して医療に参加、協力することをお願いします。

独立行政法人 国立病院機構

北海道がんセンター

都道府県がん診療連携拠点病院



〒003-0804
北海道札幌市白石区菊水4条2丁目3-54
代表 TEL (011) 811-9111
FAX (011) 832-0652
ホームページ
<https://hokkaido-cc.hosp.go.jp/>

QRコード→



● 相談窓口

がん相談支援センター
直通電話 (011) 811-9118
地域医療連携室
直通電話 (011) 811-9117
直通FAX (011) 811-9110
メールアドレス 100-mb05gas1@mail.hosp.go.jp

交通のご案内



- 【地下鉄】 地下鉄東西線「菊水駅」下車、3番出口より徒歩3分
- 【バス】 JR北海道バス「菊水駅前」バス停から徒歩約3分
- 【自動車】 札幌自動車道 札幌インターチェンジから約20分
※病院正面の駐車場は有料となっています(外来患者さんは1回200円、30分以内であれば無料)。できるだけ公共の交通機関をご利用ください